

九重化成株式会社

(新社名：KOKONOE 株式会社)

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2026年3月30日



大垣共立銀行とOKB総研は、九重化成株式会社（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

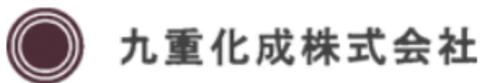
目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ..... | 1 |
| (1) 九重化成株式会社の企業概要..... | 1 |
| (2) 九重化成株式会社の事業概要..... | 3 |
| (3) 経営理念..... | 9 |
| (4) サステナビリティ..... | 10 |
| 2. インパクトの特定..... | 13 |
| (1) バリューチェーン分析..... | 13 |
| (2) インパクトマッピング..... | 13 |
| (3) インパクトレーダーによるマッピング..... | 14 |
| (4) 特定したインパクト..... | 16 |
| (5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認..... | 18 |
| 3. インパクトの評価..... | 20 |
| 4. モニタリング..... | 23 |
| (1) 九重化成株式会社におけるインパクトの管理体制..... | 23 |
| (2) 大垣共立銀行によるモニタリング..... | 23 |

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 九重化成株式会社の企業概要

| | |
|------|--|
| 企業名 | 九重化成株式会社 (2026年4月より新社名: KOKONOE 株式会社) |
| 設立 | 1948年3月 |
| 代表者名 | 吉村 岳史 |
| 資本金 | 3,000万円 |
| 従業員 | 108名 (2025年12月時点) |
| 売上高 | 2,356百万円 (2025年12月期) |
| 事業拠点 | 本社・工場 岐阜県岐阜市切通1丁目9番11号 山県工場 岐阜県山県市高木993 |
| 事業内容 | 本社・工場 顆粒製品製造販売及び受託加工 (即席飲料・調味料・菓子・スープ類・乳製品・健康食品・食品全般) 食品添加物製造販売 (有機酸類・安定剤・各種製剤の製造販売及び食品香料等の販売) 山県工場 粉末・顆粒食品及び食品添加物製剤の混合・充填・包装 (即席食品・調味料・スープ類・健康食品・食品全般・有機酸類・安定剤・各種製剤製造) |



<本社>



<沿革>

| | |
|----------|---|
| 1948年3月 | 食品添加物(主に食品用香料)の製造販売を目的として、岐阜市本町に九重化成株式会社を設立 |
| 1957年5月 | 岐阜市九重町に新社屋・工場を建設・移転 |
| 1958年4月 | 顆粒製品の製造販売を開始 |
| 1964年10月 | 岐阜市長森切通に長森工場を新設 |
| 1965年9月 | 本社工場を九重町より長森工場に統合 |
| 1991年8月 | 本社新工場完成 |
| 1996年7月 | 流動層造粒工場を増設 |
| 2003年10月 | ISO9001 認証取得 |
| 2006年12月 | リボコーン(円錐型リボン混合/乾燥機)を新設 |
| 2007年7月 | X線異物検出機を導入 |
| 2012年10月 | 製品倉庫を増設 |
| 2016年3月 | 排水処理場を増設 |
| 2016年10月 | 流動層造粒工場およびリボコーン(円錐型リボン混合/乾燥機)増設 |
| 2020年8月 | ISO9001 自主運用への切り替え |
| 2020年11月 | 岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業登録 |
| 2021年3月 | ISO22000 認証取得 |
| 2022年3月 | 山県工場を新設 |
| 2022年10月 | SDGs 宣言 |
| 2023年4月 | 山県工場、FSSC22000 認証取得 |
| 2023年6月 | 協会けんぽと健康宣言 清流の国ぎふ健康経営宣言企業登録 |
| 2024年3月 | 健康経営優良法人認定取得 |

(2) 九重化成株式会社の事業概要

【事業内容】

同社は、ふりかけ・だし・即席食品(カップラーメンなどのスープ)・即席飲料(紅茶・ココア・コーヒー・乳製品・果汁類)・健康食品(プロテイン・青汁など)・菓子類・調味料・糖類・塩類・酸類・打錠用原料・安定剤類などの食品ならびに食品添加物の顆粒製品製造販売及び受託加工を行っている。

様々な原料を大ききの揃った粒にし、扱いやすい状態(顆粒化)にしている。顧客の用途に応じて、製品および製品原料として使用しやすいように物性を改善する。

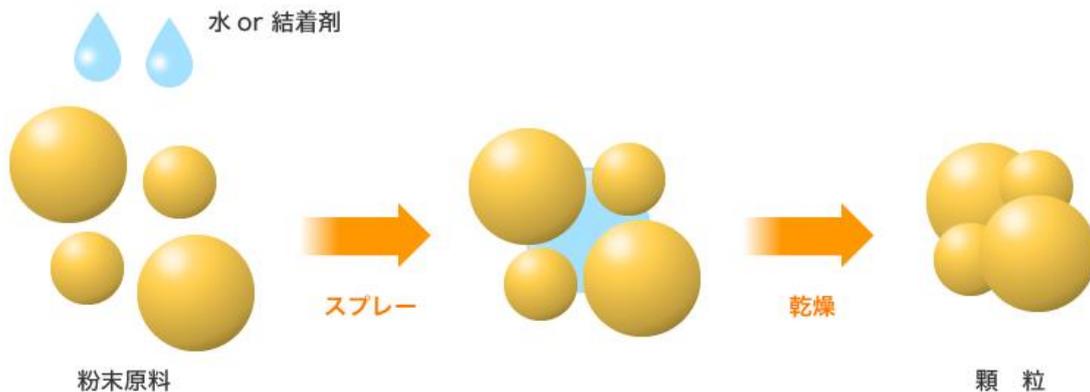


<顆粒とは>

顆粒とは、1種類、または数種類の粉末の原料を、水や結着剤(原料同士をくっつける役目をするもの)を使って原料より大きい粒にしたもの。また、粉末を粒状にすることを、造粒(顆粒化)という。

造粒機の中で原料の粉が舞っているところに、水や結着剤をスプレーし乾燥させると、原料同士がくっついて、少し大きな粒になる。スプレーと乾燥を繰り返すと粒はだんだん大きくなり、顆粒が出来上がる。

<イメージ>



<顆粒化のメリット>

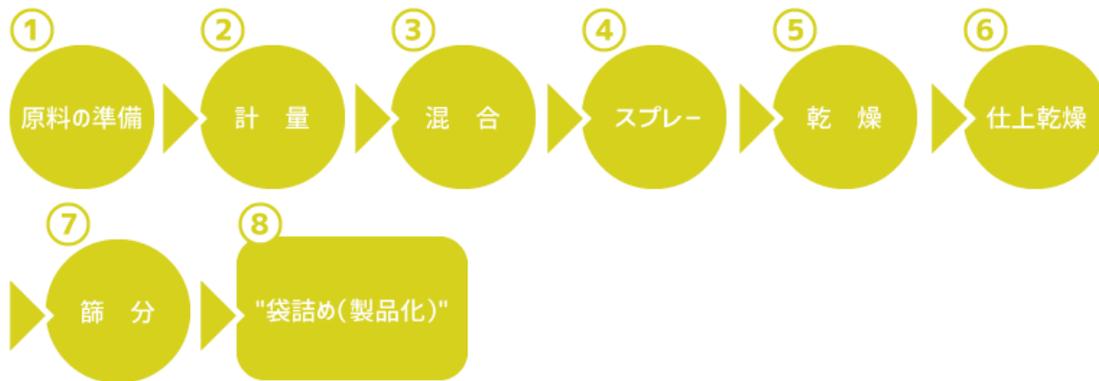
粉のままだと・・・
 袋を開けた時に中身の粉が飛び散ってしまう
 使おうとした時に袋から中身が一気に出てしまう
 液体に溶かした時にダマになる



顆粒にすると・・・
 粒が重くなるので粉が飛び散りにくくなる
 粉のままよりもゆっくり流れるようになり、扱やすくなる
 液体に均等に広がるので溶かしやすくなる



<紅茶顆粒の製造方法>



- ① 紅茶粉末（紅茶を淹れ乾燥させて粉状にしたもの）、砂糖、香料など使用する原料を注文・購入する。
顧客から原料を支給されることもある。
- ② 紅茶粉末、砂糖などの原料を必要量計量する。
- ③ 造粒機の本体に計量した原料を入れて造粒機の中に空気を送り込み、原料を造粒機の中で舞い上がらせ、混ぜ合わせる。
- ④ 原料が空中に舞っているところに水をスプレーして原料を湿らせる。
- ⑤ スプレーを止め、湿った原料を乾燥させる。
※④と⑤を繰り返して粉を粒へと大きくする。（これを造粒（顆粒化）という。）
- ⑥ 目的の大きさまで粒が大きくなったら、仕上げ乾燥し製品の水分量を調整する。
- ⑦ ふるいに顆粒を通し、顆粒の大きさを揃える。
- ⑧ ふるいを通した顆粒を袋に詰めて製品となる。

【品質への取り組み】

<食の安全>

工場入室時には会社規定の作業着を着用し、エリアごとに靴を履き替え、衛生的な環境を保っている。また、粘着ローラーとエアシャワーによる付着物の除去を行い、工場内への異物持ち込みを防止している。

同社では、様々な製品を製造し、扱う原料も多種多様。その中には食物アレルギーの原因になるものもあるため、アレルギー物質の研修も行っている。アレルギー物質の混入だけでなく微生物汚染や他製品の混入を防ぐため、製造終了時や製品の切り替え時には室内・設備を清掃・洗浄している。また、製品の微生物検査や官能検査を行い、安全性を確認している。

万が一のトラブルの際にも迅速に対応できるよう、原料から最終製品までの記録を残し、原因の追求や製品の追跡を速やかに行える体制を整えている。

<品質へのこだわり>

同社では、品質管理部が製品品質の維持、向上を担当している。

高品質な製品を提供するため、製造中の製品をサンプリングし、水分値・見かけ比重・粒度分布などを測定している。その結果をすぐに製造部に報告するだけでなく、製造中の状況も確認している。

製造部では測定結果を参考に製造条件を常に見直し、さらなる品質の向上を図っている。このように品質管理部と製造部が密に連携をとることで、顧客に高品質な製品を提供することができる。



『安心』『安全』『高品質』

<さらなる取り組み>

製品への異物混入を防ぐ取り組みの 1 つとして、製品を詰めるクラフト袋の開発を行った。今まではミシンで封緘するクラフト袋を使用していたが、糸くずが製品に混入するリスクがあった。そこで、ミシンを使用しないクラフト袋を開発し、工場内で糸くずが発生するリスクをなくした。現在、そのクラフト袋は意匠登録が完了済み。

意匠登録番号：「登録第 1652788 号」「登録第 1652858 号」

■ サンプル1(二枚重ねた構成)

【正面図】



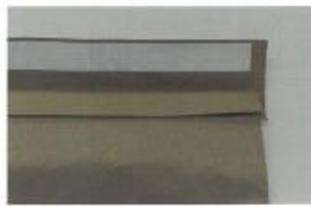
【背面図】



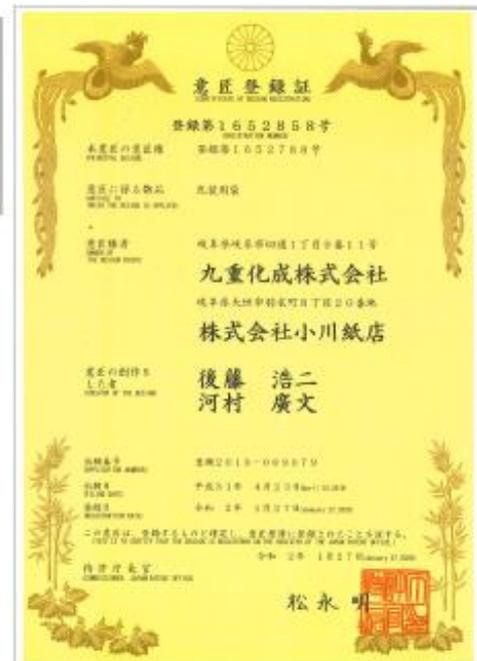
【袋の上端部を第1の折り目に沿って折り曲げた状態の部分拡大図】



【袋の上端部を第2の折り目に沿って折り曲げた状態の部分拡大図】



【参考斜視図】



【製品化までの流れ】

- ① 問い合わせ
電話またはホームページ内のフォームから問い合わせを受ける。
- ② 打ち合わせ・ヒアリング
営業担当者が顧客の要望等をヒアリングする。
- ③ 試作・検討
原料個々の性質・顆粒の用途などを考慮した上で少量試作を行い、製造適正を確認する。
- ④ 実機テスト
研究室・品質管理部・製造部で協力して本生産が問題なくできるように製造ラインでの実機テスト製造を行う。
- ⑤ 本生産
実機テストのデータを踏まえ本生産を行う。原材料は同社手配も可能。



【同社の強み】

- 同社は、顆粒製造に関する一連の実績やデータ、人材、設備を有し、大手食品メーカーを中心とする取引先から高い評価を得ている。
- 押出造粒機や流動層造粒機などを用いて、溶解性・流動性・保存性・均質性の向上ならびに飛散の防止など、顧客の要望・用途・目的に沿った顆粒製品を提供している。また、2023年には顆粒・粉末製品のブレンドから包装、カートニングまでが可能な山県工場が完成した。同工場は、今まで培ってきた技術や製造のノウハウ、品質・衛生面対策だけでなく、作業効率もアップさせるオリジナルの様々な工夫、そして食品安全システム認証 FSSC22000 に準拠した設備を揃えており、同社として太鼓判を押すことができる品質を備えた製品を作るためのシステムと管理体制を構築している。
- ロッキングミキサーを使用した顆粒、粉末原料のブレンドから、オーガー充填機、フィーダー式自動計量機を使用した小袋、大袋への充填、スティック充填、賞味期限の印字、カートニングまでを工場内で完結させることができる。
- ラインの全てを自動にせず、構造のシンプルな設備を導入しているため、大ロットの実製品以外にも、サンプルや試作品、限定品、季節商品など、ロットの少ないものや多品種のものも対応可能。生産の切り替えに必要な時間の短縮により、別商品への移行をスムーズに行っている。嗜好の多様化により増えたアソート品にも、手作業が入ることで柔軟な対応が可能。
- 加工室や倉庫に加え、工場内のヒト、モノ、空気の流れ、温度、湿度を管理することで製品品質を確保している。入室前の衛生管理をマニュアル化し、イレギュラーの発生を防ぐ仕組みを構築している。さらに、アレルギー（アレルギー物質）の混入防止に向け、特定原材料の表示、金属検査、X線検査、各種モニタリング、一般生菌数検査、大腸菌群検査、水分検査等を実施し、品質・衛生を管理している。
- 最新式の監視カメラシステムの導入をはじめ、コンセントの高さや排気ダクトの位置など工場内の各所に工夫を施している。さらに、賞味期限の印字には消毒用アルコールでも消えない高性能インクを使用し、トイレはアルコール消毒を行わなければ開錠できない仕組みとしているほか、配送トラックが交通を妨げないよう門前に待機所を設置するなど、長年の経験と蓄積した知識を生かした細やかな対応を行っている。

<山県工場>



【今後の展開】

- 同社は、食品顆粒の製造に特化して業歴 70 余年を有し、業界からの信頼を背景に、大手食品メーカーを中心とした受託加工を多数手がけている。多額の設備投資を要する特殊性の高い業種であり参入障壁は高く、現行業態の維持は十分可能と考えられる。
- 山県工場の新設により商品の包装、カートニングも可能となり、商品の最終化を行うことで売上の増加につなげるとともにコスト削減や効率化を図る。
- 最近では、プロテイン、コラーゲン、青汁といった健康食品の受注が増加しており、顆粒技術の高さが改めて評価されている。製造・品質管理・営業・研究開発等の各部門が一体となり、固定観念にとらわれず新たな成長を志向するとともに、食品包装事業へ参入し、従来以上に顧客ニーズへ対応していく方針である。

(3) 経営理念

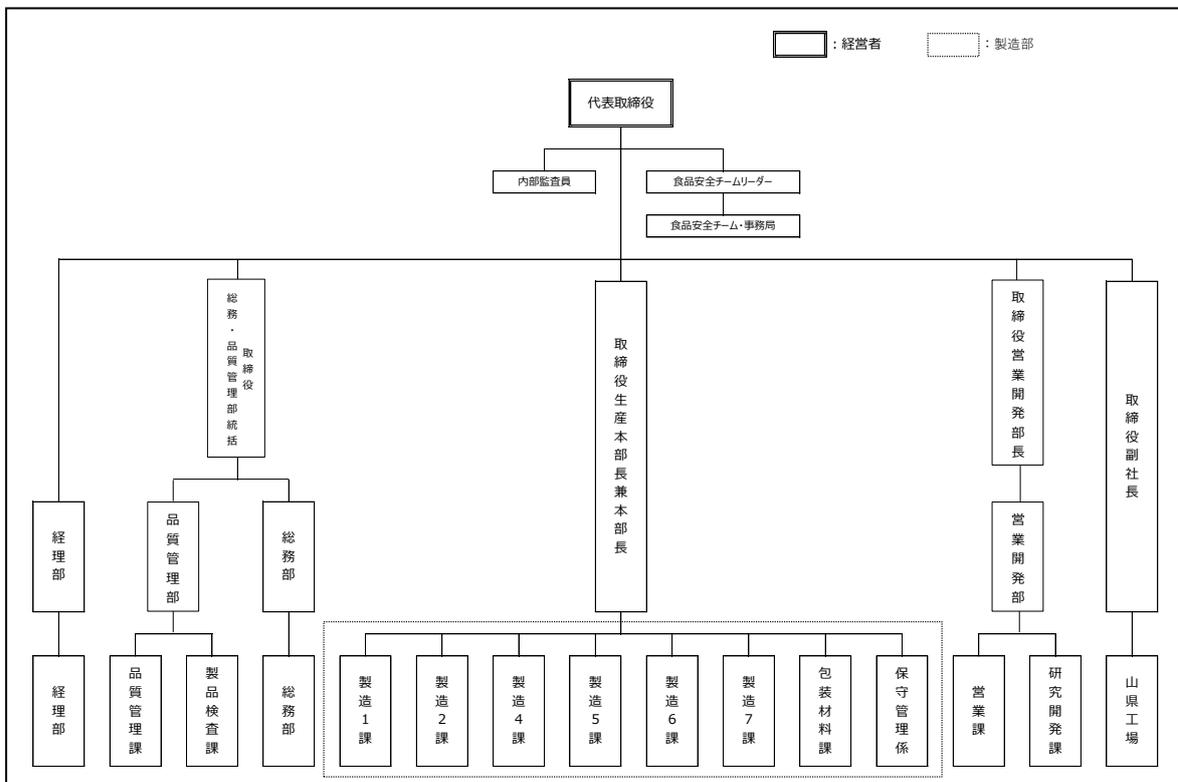
同社は以下の理念を掲げて、事業活動に取り組んでいる。

【経営理念】

全従業員と家族の幸福と社会貢献

- 毎月第一営業日の朝礼や職位ごとに開催する課長会議、部長会議、役員会等において、代表者自らが方針等とともに経営理念について全従業員に発信している。また、掲示板に掲載し浸透を図っている。

【組織体制】



(4) サステナビリティ

同社はSDGs宣言を定め、これを指針として課題に取り組んでいる。

それぞれの重点項目(マテリアリティ)において、具体的には以下のような取り組みを行っている。

① お客様のニーズに応える安心な食品の提供と健康への貢献

私たちは、健康食品や機能性食品をはじめ、お客様の食への多様なニーズに応えられる設計力と特殊製造技術を用いて、今もこれからも皆様の食の安心と健康の促進に貢献いたします。



② 使い切る、売り切ることによるフードロスの削減

私たちは、食品顆粒製造業として、賞味期限延長、規格外品の削減などを通じて、調達した原料や販売する製品の廃棄削減にこれからも積極的に取り組んでいきます。



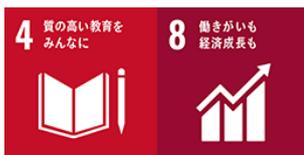
③ カーボンニュートラル実現に向けた脱炭素経営の推進

私たちは、調達・販売に係るトラック輸送から電力・重油などの製造段階までで排出される温室効果ガスの削減に対して、ハイブリットコンテナへの切替や包材のリサイクル、省エネ設備の導入などを通じて貢献いたします。



④ 生産性向上と教育機会提供による従業員の働きがいの尊重

お客様の食の安全・安心と健康を支えるためには従業員全員の力が必要になります。私たちは、全員が働きやすく、またやりがいをもって働けるよう、常に現場の生産性の向上と高い水準の教育機会を提供し続けていきます。



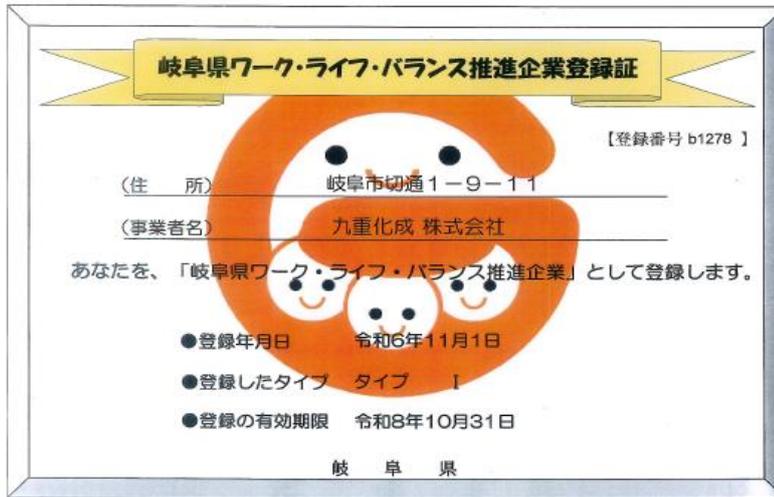
その他 (SDGs 宣言以外)

- 地域貢献
 - 高富中学校に電子ピアノ2台を寄贈
生徒の伴奏練習や学級や学年での合唱練習に活用
 - 山県市の「希望を持ち豊かに暮らすひとづくり事業」に企業版ふるさと納税として2百万円を寄付
みんなのげんき広場大型遊具等整備事業に活用
 - 高富児童館に一輪車4台を寄贈
 - 長森南中学校に図書を寄贈
 - カレンダーや使用済み切手を生協に提供。生協は善意で提供されたカレンダー等の販売代金を日本ユニセフに寄附し、世界中の恵まれない子供の援助活動に活用されている。
- スキルアップ支援
 - 業務上有効と考えられる2級ボイラー技士やフォークリフト免許等の資格取得については、受験費用等を全額会社負担とし、資格取得を励行している。OJT体制の整備に加え、各種勉強会への参加も励行し、業務に必要となるスキルを吸収できる環境を整備している。
- 福利厚生
 - 紹介制度
従業員が、同社への入社を希望する知人等を紹介する制度。紹介者（従業員）と採用者それぞれに5万円を支給している。
 - 入社準備金制度
入社1カ月前に、採用者に入社にかかる準備金として10万円を支給している。
 - アパート手当
入社から2年間、実質自己負担が不要である借上げ社宅を準備している。
- 働きやすい職場環境づくり
 - 山県市さくらカンパニー認定事業所
女性活躍推進事業の一環として、ワーク・ライフ・バランス推進や女性活躍推進に積極的な事業者として「山県市さくらカンパニー」として認定された。



➤ 岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業

仕事と家庭の両立支援に取り組む企業として、「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業」として登録された。



➤ 清流の国ぎふ健康経営宣言企業として登録

従業員の健康づくりに積極的に取り組む企業として、「清流の国ぎふ健康経営宣言企業」として登録された。

➤ 協会けんぽと健康宣言

従業員一人ひとりが心身ともに元気で活躍できる職場を目指し、協会けんぽとともに積極的に取り組むことを宣言した。



➤ 健康経営優良法人認定取得

健康経営への取組を一層推進すべく、健康経営優良法人認定※を取得した。

※ 特に優良な健康経営を実践している法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから社会的な評価を受けることができる環境を整備することを目的に、日本健康会議が認定する顕彰制度。

2. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析

- 同社は、ふりかけ、だし、スープ類、粉末飲料、調味料、健康食品等を対象に、食品・食品添加物の顆粒製品を製造販売するとともに、OEM 製造も行っている。本社工場では造粒を含む製造工程を担い、山県工場では混合から充填、包装、カートニングまで一貫対応できる体制を整備している。製品は、食品メーカーや飲料メーカー等が自社製品に組み込む原料・中間財として利用されている。



(2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。
- 同社の事業を、「他に分類されないその他の食料品製造業（国際標準産業分類：1079）」、「基礎化学品製造業（同：2011）」とする。
- 川上の事業を、「砂糖製造業（同：1072）」とする。
- 川下の事業を、「清涼飲料製造業（同：1104）」、「他に分類されないその他の食料品製造業（同：1079）」とする。
- 以上の事業について、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト（以下 PI）」と「ネガティブインパクト（以下 NI）」を想定する。

(3) インパクトレーダーによるマッピング

| バリューチェーン | | 川上の事業 | | 同社の事業 | | | | 川下の事業 | | | | |
|---------------------|------------------------------|-----------------|----------|---------------------------------|----------|--------------------|----------|-------------------|----------|---------------------------------|----------|----------|
| 業種 (国際標準産業分類コード) | | 砂糖製造業 (1072) | | 他に分類されない その他の食品製造業 (1079) | | 基礎化学品製造業 (2011) | | 清涼飲料製造業 (1104) | | 他に分類されない その他の食品製造業 (1079) | | |
| 大分類 | インパクトエリア | インパクト | Positive | Negative | Positive | Negative | Positive | Negative | Positive | Negative | Positive | Negative |
| 社会 | 人格と人の安全保障 | 紛争 | | | | | | | | | | |
| | | 現代の奴隷制度 | | | | | | | | | | |
| | | 児童労働 | | | | | | | | | | |
| | | データのプライバシー | | | | | | | | | | |
| | 健康と安全 | 自然災害 | | | | | | | | | | |
| | | 健康と安全 | | ● | | ● | | ●● | | ●● | | ● |
| | 資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質 | 水 | | | | | | | | ●● | | |
| | | 食糧 | ● | ●● | ●● | ●● | | | | ● | ●● | ●● |
| | | エネルギー | | | | | | | | | | |
| | | 住居 | | | | | | | | | | |
| | | 健康と衛生 | | | | | | | | | | |
| | | 教育 | | | | | | | | | | |
| | | 移動手段 | | | | | | | | | | |
| | | 情報 | | | | | | | | | | |
| | | コネクティビティ | | | | | | | | | | |
| | | 文化と伝統 | ● | | ● | | | | | ● | | ● |
| | ファイナンス | | | | | | | | | | | |
| | 生活 | 雇用 | ● | | ● | | ● | | ● | | ● | |
| | | 賃金 | ● | ●● | ● | ●● | ● | ●● | ● | ●● | ● | ●● |
| | | 社会的保護 | | ● | | ● | | ● | | ● | | ● |
| 平等と正義 | ジェンダー平等 | | | | | | | | | | | |
| | 民族/人種の平等 | | | | | | | | | | | |
| | 年齢差別 | | | | | | | | | | | |
| | その他の社会的弱者 | | | | | | | | | | | |
| 社会経済 | 強力な制度、平和、安定 | | | | | | | | | | | |
| | 市民的自由 | | | | | | | | | | | |
| | 健全な経済 | | | | | | | | | | | |
| | セクターの多様性 | | | | | | | | | | | |
| インフラ | ● | | ● | | | | | ● | | ● | | |
| 経済収束 | | | | | | | | | | | | |
| 自然環境 | 気候の安定性 | 気候の安定性 | | ● | | ● | | ●● | | ● | | ● |
| | 生物多様性と健全な生態系 | 水域 | | ● | | ● | | ●● | | ●● | | ● |
| | | 大気 | | | | | | ●● | | | | |
| | | 土壌 | | | | | | ●● | | | | |
| | | 生物種 | | | | | | | | | | |
| | サーキュラリティ | 生息地 | | | | | | | | | | |
| | | 資源強度 | | ●● | | ●● | | ●● | | ● | | ●● |
| 廃棄物 | | | ●● | | ●● | | ●● | | ●● | | ●● | |

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

川上・同社・川下の事業において発現したインパクトについて、カテゴリ毎の対応するSDGsターゲットを整理する。
 なお、川上・川下の事業に関するインパクトは、同社事業活動が与える影響が無いため、インパクトの特定は行わない。

| | 大分類 | インパクトエリア | インパクト | | 取組内容 | 対応するSDGs | | |
|----|------|------------------------------|---------|----|------|---|---|-------------------------------------|
| | | | PI | NI | | | | |
| 同社 | 社会 | 健康と安全 | 健康と安全 | | ○ | 「岐阜県健康経営宣言企業」や、「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業」の認証や、健康経営優良法人の認定取得を通じて、従業員の健康づくりやワークライフバランスの充実に向けて積極的に取組んでいる。 健康診断受診率100%等、従業員が健康で働くことができる職場環境を構築している。 | 8.8 | |
| | | 資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質 | 食糧 | | ○ | ○ | ISO22000の認証取得、FSSC22000に準拠した設備・管理方法を採用し、顆粒製品を安定供給する体制を整えている。 徹底した衛生管理、異物混入リスクの低減に取り組んでいる。 原料や用途に応じて柔軟に製造方法を変更できるため、高齢者向けスープ等同業他社では難しい製品化にも取り組むことができる。 | 3 |
| | | 生活 | 雇用 | | ○ | | 業務に必要な資格取得支援や資格手当付与を通じて、従業員のスキル向上を支援している。 コンプライアンス子研修の実施により、働きやすい職場環境を構築していく予定である。 | 8.5 8.6 |
| | | 平等と正義 | ジェンダー平等 | | ○ | | 山県市の「山県市さくらカンパニー」の認定を受け、女性活躍推進に積極的に取り組み、女性管理職の比率引き上げを検討している。 | 8.5 8.8 |
| | 自然環境 | 気候の安定性 | 気候の安定性 | | | ○ | 営業車のEVやHV車への切り替え、太陽光発電設備の導入、製造現場の効率化により、CO ₂ 削減や消費電力の削減に取り組んでいる。 省エネ性能の高い空調設備への切り替えを検討している。 | 7.2 13.2 |
| | | サーキュラリティ | 資源強度 | | | ○ | 顆粒技術により賞味期限を長期化しフードロス削減に貢献している。 規格外品の低減に取り組むことで、フードロス削減に取り組んでいる。 | 12.5 |
| | | | 廃棄物 | | | | ○ | 包材のリサイクル、ハイブリッドコンテナに順次切り替えていく方針である。 |

※同社の「ジェンダー平等」のPIは、同社固有のインパクトとして追加する。

※インパクトリーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いため、評価対象外とした。

(4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

環境（Environment）

環境に配慮した経営推進

- 同社は、調達・販売に係るトラック輸送から、電力・重油等を使用する製造段階に至るまでの GHG 排出削減に向け、太陽光発電設備の設置、ハイブリッドコンテナ※への切替、包材のリサイクル、作業工程のロスや手直し、清掃負荷の軽減など、製造工程の見直しによる生産性向上に取り組み、消費電力の削減を図っている。今後も、省エネ性能の高い空調設備の導入や、車両のハイブリッド車・電気自動車への切替を順次進めていく方針である。
 - また、同社の事業は、粉末製品を顆粒状に加工することで、吸湿抑制や品質均一性の向上が期待でき、適切な条件下では保存性向上を通じて賞味期限延長およびフードロス削減に寄与し得る。
 - さらに同社では、製造過程における規格外製品の最小化に向け、管理・設計の最適化を推進するとともに、「使い切る・売り切る」の方針のもと、原料調達から製品販売までの廃棄ロス削減に取り組んでいる。
 - このインパクトは「気候の安定性」、「資源強度」、「廃棄物」のカテゴリに該当し、自然環境面の NI を縮小すると考えられる。
 - SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 7.2：2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
 - 12.5：2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
 - 13.2：気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。
- ※ 本社と山県工場間のコンテナ輸送において、従来の紙包装を廃したコンテナ。ビニール包装製品をそのまま輸送する方式を採用し、これまで輸送時の緩衝材として使用していたクラフト袋による二重包装を見直すことで、包装資材の使用量削減と環境負荷の低減を図る。従来、山県工場向けの輸送では月100~150枚のクラフト袋を使用していたが、コンテナ構造の工夫等によりクッション機能を維持しつつ、紙使用量の削減を進め、持続可能な物流体制の構築に向けてさらなる改良も検討していく。

社会（Social）

介護食機能向上による高齢者の食の安全支援

- 同社は、製品そのものの品質追求に加え、安心して食べられるという大前提を守るため、徹底した衛生管理・品質管理に努めている。品質管理面では、ISO22000の認証取得に加え、FSSCに準拠した設備・管理体制を採用し、最終製品に近い工程まで一貫して担うことで、衛生管理の切れ目をなくし品質の安全性を確保している。さらに衛生管理面では、入室時の装備や動線管理、異物持ち込み防止手順の整備、工程切替時の清掃・洗浄の徹底、微生物検査の実施により、「作った後に検査する」だけに依存しない仕組みを構築している。

- さらに、異物混入リスク低減に向け、封緘工程で糸くずが発生し得るクラフト袋の課題に対応し、ミシン不使用の袋を開発。工程設計段階から工場内の異物発生源排除を推進している。
- 顆粒食品は、粉末を顆粒化することでお湯や水に溶けやすく（速溶性）、ダマになりにくくなるほか、粉末の飛散を抑え、容器への充填やスプーンですくう際のハンドリングを容易にする。また、顆粒状食品は高齢者や子供でも飲み込みやすく、服用・摂取のしやすさ向上にも寄与する。
- 同社は、顆粒製造に関する一連の実績やデータ、人材、設備を有しており、溶解性・流動性・保存性・均質性の向上や飛散防止など、顧客の要望・用途・目的に応じた顆粒製品を提供することができる。今後は、高齢者向けに「とろみ」を付与した介護食用スープ粉末の普及拡大に取り組み、高齢化社会への貢献を目指していく。このインパクトは「食糧」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大、NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

人材育成の推進と、働きがい高める職場環境の整備

- 同社は、従業員育成に関し、二級ボイラー技士やフォークリフト運転技能者資格等、業務に必要な資格取得の支援や資格手当の付与を通じてスキル向上を図っている。
- また、ダイバーシティ推進に向け、育児休業制度やフレックス制度の積極的な活用を推進し、柔軟な働き方の定着を図るなど、働きやすい職場環境の整備や両立支援、柔軟な勤務形態の導入等に取り組んでいる。これら女性活躍推進の取組が評価され、山県市の「山県市さくらカンパニー」の認定を取得。今後は女性管理職比率の引き上げを検討している。
- このインパクトは「雇用」、「ジェンダー平等」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 8.5：2030年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。
 - 8.6：就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
 - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

企業統治（Governance）

従業員の健康と安全を確保する職場環境の整備

- 同社は、「岐阜県健康経営宣言企業」や「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業」への登録、健康経営優良法人の認定取得を通じて、従業員の健康づくりやワーク・ライフ・バランスの充実にに向けた取組を積極的に推進している。
- 今後は、外部講師による定期的なコンプライアンス研修を継続的に実施し、食の安全に対する意識を含め、従業員一人ひとりへの法令遵守の徹底を図っていく方針である。このインパクトは「健康と安全」のカテゴリに該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

① 国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対する SDGs は、「3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」、「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」、「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」、「13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「12、13」において大きな課題が残る、「7、8」において、課題が残るまたは重要な課題が残るようになっており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



② 岐阜県におけるインパクトニーズ

- 岐阜県における「SDGs 未来都市計画」を参照し、岐阜県における SDGs 達成に向けての課題を確認した。

2030 年のあるべき姿

自然と人が創り出す 世界に誇る「清流の国ぎふ」

【「あるべき姿」を実現するための共通認識】

- ・ 森林や清流などの豊かな自然は、全国・世界にも誇れる本県ならではの「自然資本」
- ・ 各地域が特徴を活かし、地域内で財やエネルギーが循環する「地域循環共生社会」を形成すべき
- ・ SDGs は地球で暮らす一人ひとりが最低限備えるべきマナーと理解すべき

<環境> 美しい清流とそれを育む豊かな森の保全と活用

- ・ 「脱炭素社会ぎふ」の実現
- ・ 自然環境や生物多様性の保全と産業等での活用の両立
- ・ 資源循環型社会の形成
- ・ 自然災害への対策の構築

<経済> 「清流の国ぎふ」ブランドと変化に強い地域経済の確立

- ・ 伝統産業や農林水産業の世界的評価を獲得
- ・ サステイナブル・ツーリズムの確立
- ・ DX による産業分野の競争力の発揮
- ・ コロナ等社会経済情勢の変化に強い産業の確立

<社会> 誰もが活躍し生きがいを感じられる地域社会の構築

- ・ 多様な人材の活躍
- ・ 人口減少下でも活力ある地域社会の構築
- ・ 子育て支援等福祉医療の充実
- ・ デジタル社会、SDGs、グローバル社会に対応した教育の展開

③ 大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重点課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。

| 同社の特定したインパクト | 大垣共立銀行の重点課題 (マテリアリティ) |
|--------------------------|--------------------------|
| 環境に配慮した経営推進 | 気候変動対応、環境保全 |
| 介護食機能向上による高齢者の食の安全支援 | 地域経済の持続的成長 |
| 人材育成の推進と、働きがいを高める職場環境の整備 | 多様な人材の活躍推進 |
| 従業員の健康と安全を確保する職場環境の整備 | コーポレートガバナンスの高度化 |

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGs の達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。

3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する

環境に配慮した経営推進

| 項目 | 内容 |
|-----------|---|
| インパクトの種類 | 自然環境的側面において NI を縮小 |
| カテゴリ | 「気候の安定性」「資源強度」「廃棄物」 |
| 関連する SDGs |    |
| 内容・対応方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・営業車の EV やハイブリッド車などエコカーへの切り替えによる CO₂排出量の抑制 ・二重包装の見直しによる包装簡素化と輸送用コンテナ改良の推進 ・太陽光発電システム導入および空調設備等更新による消費電力量の削減 |
| KPI | <ul style="list-style-type: none"> ・2030 年 12 月期までに営業車のエコカー率を 50%以上にする (2025 年 12 月時点 : 16%〈1 台/6 台〉) ・2030 年 12 月期までにハイブリッドコンテナ※1 への切替率を 50%以上とする (2025 年 12 月期実績 : 0%) ・2030 年 12 月期までに、消費電力量の削減率を 2025 年 12 月期比 5%以上とする (2025 年 12 月期実績 : 2,216,053kWh) <p>※以降の KPI は改めて設定する</p> <p>※1 本社と山県工場間のコンテナ輸送において、従来の紙包装を廃したコンテナ</p> |

介護食機能向上による高齢者の食の安全支援

| 項目 | 内容 |
|-----------|---|
| インパクトの種類 | 社会的側面において PI を拡大 |
| カテゴリ | 「食糧」 |
| 関連する SDGs |  |
| 内容・対応方針 | ・高齢者の食の安全に貢献する介護食用スープ粉末の普及拡大 |
| KPI | <ul style="list-style-type: none"> ・2030 年 12 月期までに、新規分野である高齢者向け介護食用スープ粉末（とりみ付与による誤飲防止）の売上高を 4,000 万円以上に拡大する（2025 年 12 月期実績：0 万円） ※以降の KPI は改めて設定する |

人材育成の推進と、働きがいを高める職場環境の整備

| 項目 | 内容 |
|-----------|--|
| インパクトの種類 | 社会的側面において PI を拡大 |
| カテゴリ | 「雇用」「ジェンダー平等」 |
| 関連する SDGs |  |
| 内容・対応方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得サポートや資格手当の付与によるスキルアップ支援 ・二級ボイラー技士、フォークリフト運転技能者資格取得によるプロ意識の向上および社会的評価の向上 |
| KPI | <ul style="list-style-type: none"> ・2030年12月期までに、二級ボイラー技士※1 資格取得者を15名以上とする (2025年12月期実績：取得者10名) ・2030年12月期までに、製造部門におけるフォークリフト運転技能者※2の資格取得率を90%以上とする (2025年12月期実績：83%〈対象従業員53名中44名〉) ・2030年12月期までに、非製造部門における女性管理職（課長補佐職以上）の比率を15%以上とする (2025年12月期実績：7%〈対象従業員55名中4名〉) <p>※以降のKPIは改めて設定する</p> <p>※1 労働安全衛生法に基づく、比較的小規模なボイラーの取扱いができる国家資格</p> <p>※2 最大荷重1トン以上のフォークリフトを運転するために必要な国家資格（技能講習修了資格）</p> |

4. モニタリング

(1) 九重化成株式会社におけるインパクトの管理体制

- 同社では、代表取締役社長 吉村岳史氏を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定ならびに KPI の策定を行った。
- 今後については、本件にかかる責任者を代表取締役社長 吉村岳史氏とし、SDGs の推進、ならびに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行とOKB総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、およびOKB総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行およびOKB総研がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利はOKB総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳および翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。